国産材の安定供給・利用拡大への取組

はじめに

「森林・林業再生プラン」が農林水産省より策定・公表され、二〇二〇年までに木材の自給率を50%以上にする目標を設定していますが、その実現には、国産材の安定供給体制の確立が重要な課題であり、国有林はその中核を果たすことが期待されています。

九州森林管理局では、「簡素で効率的な生産・流通・加工システムづくり」を目指し、間伐材を有効に活用する大規模需要先などへ定時・定量・定価格で丸太を供給する安定供給システム販売（国有林と需要者が国有林材の供給量について協定を締結した販売）（以下、システム販売と言う）を推進するとともに、国産材の需要・販路の拡大を一層推進するため、民有林と国有林が連携しロットをまとめたシステム販売に取り組んでいます。

木造公共建造物（上天草市松島庁舎兼保健センター）全景

木造公共建築物（上天草市松島庁舎兼保健センター）近景内部構造材

これまでの取組

システム販売は、平成16年度には2万1千立方でしたが、平成23年度には26万5千立方を実施し着実に増加してきており、木材の安定供給に対するニーズも年々高くなってきています。

このような国有林における取組が、民有林へも波及し、民国連携したシステム販売として、民間森林所有者に加え県有林との共同出荷にも取り組みを拡大しました。

また、システム販売により、国産材がほとんど利用されていなかった2×4住宅部材用の供給や、これまで利用されていなかった小径木・大曲材などのいわゆるC材などを製紙用原材料などとして供給を実施し、国産材の需要拡大に取り組みました。

さらに、森林認証材（SGEC材）として付加価値を高めた供給を実施しました。

（※SGEC材：持続可能な森林経営が営まれている森林として「緑の循環」認証会議（SGEC）が認証した森林から伐採生産された木材）

バーカーで皮剥ぎされる合板や集成材の原材料（B材）

製造される合板

平成24年度の取組

平成24年度は、スギ・ヒノキ

合わせて素材販売の97％にあたる30万3千立方をシステム販売で計画しており、間断のない生産に努め、大型工場や地域製材工場への安定供給を図るとともに、木材乾燥用木屑ボイラーやバイオマス発電用燃料としてC材を含め林地残材などの未利用材を供給することにより、国産材の利用が低位な分野への安定供給に取り組むこととし、外材から国産材への移行を促進します。

しかしながら、長引く円高や需給バランスの変化による木材価格の低迷などから、木材産業を巡る状況は急激に変化しており、とりわけ本年度春先は木材価格が下落し、きわめて厳しい状況に陥ったことから、6月には可能な限りの出材調整を行い、国有林内のシステム販売については、協定に基づき価格の見直しを行ったところです。

また、木材の需要拡大を図るため、局主催で国産材需要拡大のための九州森林・林業セミナーの開催や木材関係者との木材需要拡大に向けた意見交換会の開催を実施しました。

C材原木

製造される合板

協定について

協定については、国有林及び民有林（3者）から販売予定の素材の樹種、数量、規格などを公告し、買い受け希望者がスギなどの国産材の新たな需要拡大に向けた企画や、加工や流通、用途、また曲がり材のほかC材などのエネルギー利用など新たな需要の開拓を積極的に進める企画提案を応募する企画競争形式により相手方を決定しています。

平成24年度の後期（10月～3月）のシステム販売の募集においては、

①需要者のニーズに応じてスギ・ヒノキの一般材や曲がり材のみを供給

②2×4住宅部材用材としてスギ材を供給

③合板・集成材用材や木質バイオマス燃料用等としてB材・C材を供給

④森林認証材（SGEC材）として付加価値を高めた供給

⑤公募による民有林からの参加者は、これまでで最も多い7者で6640立方を供給などが特徴で、原木の安定供給を前提に、専門性の高い製材業者が複数協同して購入するタイプや木材市場と製材業者が連携するタイプなど多様な流通ルートが形成されているとともに、国有林からの間伐材には、間伐材証明を付することとしており、間伐材の付加価値向上にも資するものと期待しています。

製造された合板

おわりに

近年の国産材指向の高まりや製材工場の規模拡大により、原木の安定供給への要請は、益々強まってきています。また、木質バイオマスの原料としてこれまで利用されていない林地残材などの未利用材に対する利用がこれまで以上に期待されます。

このため、九州管内の民有林・国有林が一層連携した、より強固な安定供給への取組を行っていくことが木材利用の拡大を図る上でも重要と考えており、このシステム販売の取組が民有林へも波及し国産材の安定供給体制の確立に資することを期待しています。

（文責　販売課
課長補佐　有薗敏行）

C材からチップ（製紙用原材料等）を生産

安全・安心に向けた治山事業の取組

はじめに

治山事業は、国民生活の安全・安心を確保するため、近年多発している台風や集中豪雨などにより発生した災害個所についての迅速な復旧や保安林機能が低下した森林などの整備など、災害に強い国土の形成に向け、計画的かつ効率的に事業を実施していくこととしています。

平成24年度については、①国民生活の安全・安心を確保するため、民有林と連携を図りながら効率的かつ効果的に治山事業を展開②大規模な山地災害発生時における都道府県支援のための職員派遣などを迅速かつ円滑に実施③木材の利用促進及び渓流生態系保全に配慮した治山事業の推進の3つを柱として治山事業を展開しているところです。

平成24年７月の集中豪雨による荒廃状況＝阿蘇市

国民生活の安全・安心を確保するための取組

「平成24年7月九州北部豪雨」

平成24年７月11日から14日にかけて降り続いた豪雨により、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県にかけて記録的な大雨となり、気象庁は初めて災害への危機感を喚起する「これまでに経験したことのないような大雨」と表現するなど、九州各地で甚大な被害をもたらしました。

大分県九重町で発生した崩壊地

大分西部森林管理署管内の大分県玖珠郡九重町の飯田河内山国有林において、山腹斜面が幅約50㍍、長さ約２００㍍にわたり崩壊、その崩壊土砂が下部の鳴子川を堰き止め、一時小規模な土砂ダムが発生しました。

この被災個所の下流には、人家や観光施設などもあることから、災害発生当初から九重町、大分県をはじめ関係機関と調整を図るとともに専門家による現地調査を実施するなど、早期の災害復旧に向け取り組んで来ました。大分西部森林管理署では、一日も早い工事完成を目指し、本年度中に工事に着手することとしています。

崩壊地の下部で発生した土砂ダム

大規模な山地災害発生時における都道府県支援のための職員派遣

平成24年７月11日から14日にかけて阿蘇地方では、記録的な大雨に見舞われました。

阿蘇市乙姫では、最大時間雨量１０６㍉、最大日雨量４９３㍉を記録、河川の氾濫や山腹崩壊により阿蘇市だけで死者21人、家屋全・半壊あわせて１１２７棟のほか、林地崩壊、林道施設及び治山施設など、併せて約１５０億円の林業関係被害を出し、甚大な被害となりました。

治山施設の点検調査状況

九州森林管理局では、今回の集中豪雨に伴う被害状況を早急に把握するため、熊本県と連携しヘリコプターによる上空からの被害状況を調査しました。

治山施設の点検調査状況

治山施設の点検調査状況

また、阿蘇地域では林野庁において昭和57年度から平成22年度までの間、民有林直轄治山事業を実施してきた経緯から、熊本県からの要請を受け、旧阿蘇地区民有林直轄治山事業区域内にある治山施設の点検調査を実施しました。

治山施設の点検調査は、事業区域二四三六㌶内の18渓流に施工した435基の治山施設が対象で、九州各地の森林管理署などから集まった治山技術者31人により、7月23日から5日間にわたり延べ58人の人的支援を行いました。

木材の利用促進及び渓流生態系保全に配慮した治山事業の推進

地球温暖化防止をはじめ、健全で多面的な機能を発揮する森林を育成するため、木材の利用促進に積極的に取り組んでおり、治山ダムの型枠材料として丸太残存型枠やスギ間伐材を原料とした合板型枠を採用しています。

また、間伐材を使用した堤高が低い治山施設の施工や現地発生材の有効利用など渓流生態系保全に配慮した治山事業を推進しています。

点検調査前の打合せ状況

丸太残存型枠の施工状況

間伐材を使用した床固工（五島市）

新燃岳噴火対策の推進

平成23年1月の霧島山（新燃岳）の噴火以来、宮崎森林管理署都城支署並びに鹿児島森林管理署では、地域住民の安全・安心を確保するため、降灰量が多く泥流や土石流の発生が心配される渓流に治山対策を実施してきました。

噴火以降今日まで、泥流や土石流の発生に伴う人家などへの被害は発生していませんが新燃え岳周辺には多量に降灰が堆積しており、長期間にわたり土石が派生しやすい状態となっていることから、今後も治山事業全体計画を踏まえ、計画的かつ効率的にに荒廃渓流や山腹崩壊地などを復旧することとしています。

平成23年２月噴煙を上げる霧島山（新燃岳）

霧島山（新燃岳）は、平成23年3月を最後に爆発的噴火は発生していませんが、平成24年10月の火山噴火予知連絡会の検討結果では、「新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへの深部からのマグマの供給は停止したが、火口には高温の溶岩が溜まっていて、火口直下の火山性地震が続いていることから、小規模な噴火が発生する可能性がある」としており、今後も火山活動を注視する必要があります。

噴火以降に実施した治山対策

区　分	実施内容
治山ダム	３２基
山腹工	２．１０ha
土石流センサー監視カメラ	３箇所
堆積土砂の除去	約２４，０００m3
そ　の　他	大型土のう設置１箇所

宮崎森林管理署都城支署並びに鹿児島森林管理署では、霧島火山防災連絡会議などにおいて、関係機関との情報の共有化及び連携を図るとともに、地元の要望や現地の荒廃状況を確認し効果的な治山事業を積極的に展開し、地域住民の安全・安心を確保することとしています。

（文責　治山課
課長補佐　赤星良治）

高崎川流域に完成した治山ダム（小林市）

丸谷川流域に完成した治山ダム（都城市）

中津労基署と安全パトロールを実施

【大分西部森林管理署】請負事業体の労働安全の確保と強化を目的に、中津労働基準監督署と合同で安全パトロールを実施。林道の新設個所は、当日の作業内容の説明や施工地の安全確認を行い、安全専門官から作業機械基準の説明を受けました。午後から素材生産事業における災害事例の分析などの指導があり、参加者から活発な質問が出され、安全を再確認したパトロールとなりました。

パトロールへ参加したみなさん＝大分西部

森林作業道作設現地検討会を開催

【北薩森林管理署】森林作業道作設に伴うオペレーターの技術向上を目的に森林作業道作設現地検討会を行い、森林・林業活性化センター会員や関係者など約80人が参加。はじめに田中則一署長と鹿児島県の仮屋技術主幹が挨拶。当署からは森林作業道作設指針のポイントの説明を行い、森林作業道作設オペレーター育成研修技術検討委員の寺床林産(株)の寺床隆志社長を講師にスイッチバック・洗い越し作設個所の留意点など重要ポイントを確認。参加者から「大変参考になった」との声もあり民有林と情報交換の必要性を再認識できた1日でした。

現地で検討会を行う関係者＝北薩

鹿児島大学実習生受入れ

【鹿児島森林管理署】鹿児島大学農学部寺岡准教授からの依頼で、農学部森林科学コース12人を受入れ国有林の概要について説明を行いました。はじめに、森本義春署長から歓迎の挨拶を受け、職員の執務状況を見学。その後、署長や流域管理調整官、各課長から森林管理署の具体的な業務内容や苦労話など体験談を交えた話がありました。学生らは、卒業後の進路や将来の就職先の話に興味津々に説明を聞き学生の真剣さがひしひしと伝わってきました。

森本署長から説明を受ける学生＝鹿児島

モンゴル国の森林官が来署

【熊本南部森林管理署】NPO法人「地球緑化の会」の要請を受け、日本の森林施業を学ぶため来日しているモンゴルの森林官ハグア氏が来署。当署の管内概要や森林施業について説明を受け、モンゴルでは基本的に禁伐で、日本における森林の機能類型に応じた管理経営に関心を持っていました。また、シカ被害による生物多様性への影響について熱心に説明を聞き、日本におけるシカ被害の深刻さを再認識していました。

説明を受ける森林官ら＝熊本南部

イベントで国有林をPR

【北薩森林管理署】北薩森林管理署管内の市町村において、11月10日から18日の土曜・日曜にふるさとまつりが行われ、当署も参加しました。11月10～11日に伊佐ふるさとまつり、17日～18日に出水市くらしと木材まつり、18日にさつま町フェスタが立て続けに行われ、対応に大忙しでした。内容は、森のクイズ、モックン教室、緑の募金活動で、当署や国有林のPRを行いました。

伊佐ふるさと祭へ出展したブース＝北薩

人のうごき

1月1日付林野庁長官発令

森林整備課長
工藤　孝（宮崎森林管理署都城支署長）

販売課長
古閑博行（企画官（販売戦略担当））
宮崎森林管理署都城支署長
川畑充郎（販売課長）

◇長い間ご苦労さまでした◇

◇定員内職員◇

12月31日付林野庁長官発令
山部正富（森林整備課）

12月31日付森林管理局長発令
佐藤健介（大分署）

お悔やみ申し上げます

米澤久和　様

北薩森林管理署宮之城森林事務所勤務、基幹作業職員　米澤久和様は12月30日ご逝去されました。（55歳）

「巾着式網はこわな」キャラバンへ参加

【大分森林管理署】職員を対象に署で進めている大苗を使った省コスト造林プロジェクトの意見交換やシカ捕獲マニュアルを使った情報の共有を目的に造林研修を行いました。大苗を使った省コスト造林プロジェクトとは、苗高150㌢以上の苗を植えることで、最初からシカによる先端食害を防ぐことができるのではないか、また、誘導伐に使えないかとの発案で発足したプロジェクトです。今年度の植付けに向けての活着率やシカの剥皮被害についての対策や、シカ捕獲マニュアルを使った情報共有では、マニュアルに書かれている技術を紹介し、現場で行っているシカの捕獲方法について情報を収集しました。午後から、研修の一環として森林技術センターが考案した「巾着式網はこわな」のキャラバンに参加しました。

巾着式網はこわなキャラバンに参加＝大分

幼稚園に「クリスマスツリー」を提供

【大分西部森林管理署】子ども達に本物の木の良さを感じてもらうため、旧日田営林署時代から日田市内の三芳幼稚園にクリスマスツリーを提供しています。三芳幼稚園では、職員が2㍍ほどのモミの木の鉢植えを運び込み園内に設置すると、園児らは大よろこびで早速、飾り付けを行いました。その後、園児から「すてきなモミの木をありがとうございます」と感謝状を手渡してもらい贈呈があり、クリスマスソングを全員で合唱しながら遊戯を披露してくれました。今年もこのモミの木のクリスマスツリーで、楽しいクリスマスを過ごしてくれることを願っています。

ツリーの飾り付けを行う園児ら＝大分西部

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物

⑥63 ナナミノキ（モチノキ科）

九州の里山ではどこでも普通に見られる雌雄異株の常緑の樹木です。きれいな赤い実がなることから身近な庭園木として昔から親しまれてきました。（特に暖かい地方）

ナナミノキは、モチノキ科です。モチノキの果実は球形ですがナナミノキの果実はやや楕円形になっていることからナナミノキと呼ばれるようになったとも云われ、枝を折ると斜めに折れるからとの説もあります。

モチノキ科の樹木は、たばこの火（ライターの火でも可）を葉に押しつけると紫環（死環）ができることからも見分けられ、ナナミノキもきれいな紫環ができます。モチノキとナナミノキの区別は、葉に低い鋸歯があり、葉は7～12㌢と長く、淡紫色の花を観察することで見分けられます。また、標本を作ると暗褐色へ変化するのも特徴の一つです。

花は花弁が4個、雄しべが4個、果実の中の種子が4個あることから4数性の樹木です。ツクシシャクナゲは、花の裂片が7、オズイが14個あり7数性、ヤクシマシャクナゲは5数性です。

あけましておめでとうございます▼年末年始にかけ冷え込みが厳しく、静かな正月を迎えた▼年始に、昨年の九州北部豪雨災害で被害を受けた郷里に帰った▼実家は被害のひどかった古城地区で、幸い住居は難を逃れたが、田畑は被害を受けた。稲田は昨年の収穫は少し出来たようだが、石や丸太などが入っており、それらを除去しないと今年の田植えは出来ないとのこと▼また、隣の坂梨地区では、道路や流された住宅地など以外では被害の爪痕が生々しく残っており、散乱した流木や土砂は今も災害の凄さを見せつけている。一刻も早い復旧・復興が進めばと思う▼当時気象庁はこの雨を、「これまでに経験したことのないような大雨」と気象情報において発表した▼今年は国有林野事業が一般会計化される大きな節目の年である▼我々もこれまでに経験したことのないような大変な年を迎えた▼気を引き締めて、前向きに全力で取り組んでいかなければならないと思う▼一般会計化への移行が円滑に進み、明るい年となるよう切に願う。（二）